

第2回これからの学生生活をともに考え、見守る研究会 当日Liveアンケート

名前	質問内容
委員学生	【感想】私は就職活動を始めたタイミングがコロナの第3波だったため、周りの就活生や大学の仲間と会うことができないまま就活が進みました。進むにつれ、 就活のことを話すのはタブーなのでは と思うことで、なかなか 友達とお悩み相談するのがむずかしかった 部分もありました。 気軽に話せるコミュニティがあれば、きっかけがあればもっと安心してみんなで頑張れる のかなとも思います。また、現在、24卒の就活支援ボランティアを行っていますが、 ガクチカ に関しては、同じように内容の大小で考えてしまう学生が多いように思います。そういった部分を 先輩から話せることが大事 のように思いました。
委員学生	これは自分の肌感ですが、自分自身が就活に関する情報を受け取ることがあまりありません。コロナ禍で先輩やOBOGとの関わりが希薄になり、先輩方の体験を聞く機会がない気がします。また、学生の方も、どうやって聞いたらいいのかわかっていないのでは、とも……（自分自身もその傾向にあります）。 大学生協として、何か励ましたり関わりを生むことができたらいいなあ と思います。
委員学生常勤	誰もが、自信を持って「体験」を通して可能性や人柄を話せるようになるためにどうすればいいの だろう…と考えていました。出来事から考えるのではなく 自分の強みや特性を見つめ、それができるようになった&発揮された経験を考えるということが大切だ と思いました。当たり前のことかもしれませんが、「肩書き」に惑わず自信を持つために、自分の特性とその経験という流れを意識することは大切だと思います。
委員社会人	ネットに振り回されない信頼性の高い情報は大切だ と思います。例えば、相談を受けた大学の就職関係センターで、相談を受けた人からその後の結果等を可能な範囲で聞いて蓄積し、次年度への情報提供等に仕えるとよいように感じました。
委員社会人	学生の意識の変化というのは、個人個人の変化ではなく、昨年の大学3年生と今年の大学3年生ということで、連続性がないものと思われ、それを当人たちへのアドバイスにどう活かすかという視点もあるとよいと思いました。
マスコミ	週刊誌「サンデー毎日」編集部で教育担当のデスクをしている飯山と申します。およそ25年前に山形大文学部を卒業し、今は長女が大学3年で、正に就活を始めています。ガクチカは今でも小白川に部室はあるのでしょうか、アメフトでしたね。本題ですが、松坂先生の山大学生の調査対象は、全学部でしょうか？ 米沢や鶴岡と理系学部があるのも、うちの大学の特徴かと思えます。 理系と文系で事情が随分違う と思えますが、調査対象は小白川の子が中心か、教えてくださいませんか。話すべき人間が、学生の方がよいのなら、無視してください。
大学団体	地元の中小企業の情報収集 は、就職情報サイト(マイナビ・リクナビ)では掲載がない場合も多いと思います。情報収集の方法として、企業のWebサイトはもちろんだと思いますが、ハローワークや商工会議所などの学生向けの情報発信はないのでしょうか？ また企業と学生の情報交流の機会はない のでしょうか？ 学生の皆さんの経験を含めて、もしあれば、教えていただけると幸いです。
生協役職員	【感想】現在、公務員講座受講生に対し人物試験対策のピークを迎えておりますが、講演にありました通り学生のプレゼンとの差を感じており、 生協の役割（保護者でもない先生でもない友人でもない） をひしひしと感じております。（生協学生STAFFのスゴさも…） 【質問】当生協ではキャリア講座として「保護者」もターゲットに加え実施していますが、就活に対する「保護者」の存在について先生のご意見を聞いてみたいです。
生協役職員	就活そのもののサポートは大学の方が得意だと思います。「 学生同士のつながりづくり 」は 大学生協の得意分野 だと思います。 先ほど佐々木さんがおっしゃっていたように周りの就活生の様子が掴めない。普段の友達に相談しづらい。という環境の中で 就活生同士で付度なく話せる関係性づくりは大学生協が一役買える のではないかと思います。 また、各地区や広域での取り組み・セミナーなどを東京学芸大のような生協職員からすると「 うちはあんまりハマらなそうだな 」と思いきや そう大学ほど周知していく必要性 を感じました。 彼ら同士も、「教育大同士」などのつながりづくりができると、「なんで教員にならなかったの？」ばかり聞かれるよな！とかお互いの励まし合いや情報のシェアし合いができるのかもかもしれないと想像しました。 ただだと、感想でした。
ブロック職員	お話ありがとうございます。松坂先生の論文の話の後日お聞きしたいと思いました。 学生が社会に目を向けることと就職活動を同時に3年生に行うこと自体に無理がある のかもかもしれないと思いました。 1年生・2年生のうちに地元企業等との産学連携等に関わる一社会がどう動いているか知る 。その経験があれば、 就職活動へプラスに働く かもしれないと感じました。
事業連合職員	感想です。 自分の人柄や可能性を伝えるための自信をぜひ大学生活の中でつけてもらえるような環境づくりがあるととてもいいなと思いました。特に褒められる経験というのは大学生のうちにぜひ体験していただきたいと思います。 大学生協がそのような体験や、日々の店舗利用の中で褒められるようなことがあるといいな あと感じました。